

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.3 教育方法	
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。	
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）	
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性	
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性	
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 履修者数が教室の収容定員を超える科目をなくす。	→教室の収容定員を超えている科目数をなくす	C
2. 学習効果を向上させるために、全学履修登録単位数の上限を年間50単位未満にする。	→50単位以上の学部・学科数をなくす	B
3. 学習を進める上で必要な項目が適切に盛り込まれたシラバスを設計し、記載を徹底する。	→不完全シラバス数をなくす	B
4. 共通教育としての初年次教育に高学年の学生によるピアサポートシステムを制度化する。	→ピアサポートシステムの設置	C
5. 全教員が授業評価結果を教育改善に結びつける。	→授業改善コメント用紙の提出率を100%にする	C
6. GPA制度の改善と制度趣旨の周知徹底をする。	→成績による選考基準等のGPA統一	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

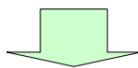
☆ 小項目6.3.1	(現状説明) 現在は、教育目標にもとづき各学部等が教育課程を編成し、授業科目を設定するにあたって適切な授業形態を採用している。今後は、教育課程の実施・編成方針の明示やカリキュラムツリー、マップの策定により、より適切なカリキュラムと授業方法の設定ができるものとする。また、こういった情報の明示は、教員に対しては学習指導の明確化を促し、学生に対してはモデル履修例やシラバスの活用による計画的な履修を促すことになる。また、単位制度の趣旨から、1年間に履修登録できる単位数を50単位未満とすることとして各学部で検討を進めており、すでに多くの学部がそのような決定をしている。
------------	---

★ 小項目6.3.2	<p>(現状説明)</p> <p>現在シラバスはシラバスシステムにより科目担当者が直接入力して作成されている。シラバスには、学生が履修の検討や実際に学習を進める際に必要と考えられる項目は設定されていたが、2010年度にはシステムを改修し、担当者に「成績評価方法・基準」「講義目的」「準備学習」についての、より具体的な記載を求めた。しかしながら、他の項目も含め、まだ担当者により記載内容にばらつきがある。</p> <p>また、学生による「授業に関する調査」には、シラバスに関連して、「この授業の学習目標ははっきり示されていた」「毎回の授業はおおむねシラバスにそって進行していた」という質問項目を設けている。2008年度の調査結果では、両項目とも平均的には4点台（どちらかというと思う）の評価となっており、シラバスと実際の授業に大きな乖離はないと思われる。</p> <p>シラバスについては、新中期計画の施策（質保証プロセスの強化）として、項目設定や記載内容等について改善の検討を進めている。今後は高等教育推進センターが実施する授業調査との連携も必要である。</p>
★ 小項目6.3.3	<p>(現状説明)</p> <p>各科目の成績評価方法・基準については、シラバスの該当欄に、評価項目、基準、割合等を記載して、学生への周知を図っている。ただ、どのような方法・基準によるかは原則として担当者に任されており、大学としての基本原則といったものはない。</p> <p>また単位認定の適切性に関しては、現在15週の授業が確保されていない。この点については2012年度から15週の授業スケジュールとすることとして具体的な検討を進めている。</p> <p>成績評価に関連しては、GPA制度の改善と活用について、教務委員会のもとの専門部会で検討を進めている。</p>
★ 小項目6.3.4	<p>(現状説明)</p> <p>教育内容や教育方法の改善に向けての取組は、成績評価の結果や授業調査の結果等をもとに継続して行われるべきであるが、現在は教員個人に任されている面が強く、組織としての取組となっていない。これまでFDに関しては、教務委員会のもとにFD部会を設置し、各学部のFD委員会等が実施する研修会などの授業改善に関する情報を共有し活動してきたが、2010年度からは高等教育推進センターを中心に全学的な活動を推進するとともに、各学部、個々の教員の教育改善に向けての取組を支援・サポートしていくことになった。</p>
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	履修登録単位数の上限を50単位未満とすることについては、大半の学部がそういった設定に変更し、未決定の学部は、完成年次を迎えていない2学部を含め4学部となった。
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	さらに検討を促していく。
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.3.1	教育目標、カリキュラムポリシーにもとづくカリキュラム関連の各種情報の提示と、学生の学習に必要な情報（シラバス等）の提示により、適切な教育方法の選択と学生の学習指導が行える環境を整備する。
小項目6.3.2	シラバスの記載内容の充実を図る。授業調査との連携を図り、実際の授業との差異をなくす。
★小項目6.3.3	全学的な成績評価に関する認識の共有化を図る。また15週の授業スケジュールを導入する。
小項目6.3.4	FDについて大学としてより組織的に取り組んでいける仕組みを構築するとともに構成員に周知する。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.3.1	カリキュラム関連の情報提示を実施する。
小項目6.3.2	シラバスの項目設定の見直しと記載内容の充実方策を検討する。
★小項目6.3.3	2012年度から導入する15週の授業スケジュールを決定する。
小項目6.3.4	FDにつながる授業調査の在り方について、高等教育推進センターでの検討を受け、教務委員会を通じ全学的な推進に協力する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 「高等教育推進センター」が設置されたことは、組織として非常に大きな成果だと判断されます。「教育体制」の項目で評価されるべきものと考えられますが、自己評価とともに今後の活発な活動に期待したいと思います。
- 「現状説明」を見る限りでは「進捗評価」と「改善方策」はおおむね妥当と判断されます。

【学内委員】

- 本項目については、基本構想と相まって着々と対策をされているようです。実現に期待します。
- 設定された目標についての進捗状況は適切に記述され、評価されています。しかし、学位授与の方針、教育目標が明示されていない状況の中では目標が限定的なものにとどまっています。
- 目標1についてもう少し説明をお願いします。
- FDに関してさらに組織的に機能的に取り組むことを期待します。
- 目標に掲げられている「授業改善コメント」提出率の現状について説明をお願いします。また、GPA制度の改善とありますが内容がわかりません。概略をお示しください。
- 2006年度の認証評価において、授業評価アンケートについて「助言」が付され「改善報告書」を本年7月に提出されました。引き続き改善が期待されます。また、現状説明が必要かと思えます。
- 小項目6.3.1の要素にある「学生の主体的参加を促す授業方法」については、目標に掲げられた「ピアサポートシステム」など、高等教育推進センターや共通教育センターの活動に期待します。
- 成績評価の厳格性が全ての施策の前提条件です。大学としての基本原則が必要でしょう。
- 最近文部科学省の動きが早く、すぐに実施に移ってきています。したがって、文部科学省、中教審などの動向をみながら迅速で適切な対応が求められます。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。
- 教室の収容定員を超えている科目数をなくすためには、①教室の数を増やし、教員数を増やすという根本的な解決を図る、②履修者数の制限などの対症的な方策を講ずる、という2種類の方策が考えられます。どちらを基礎に据えるのかということを確認する必要があります。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「3-1. 学士課程の教育内容・方法(2)教育方法 ②1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満で設定している」については、本水準を満たしていない学部、学年があり助言対象となる場合があります。改善に向けご努力ください。
- 目標にある、履修者数が収容定員を超える科目をなくす、授業評価コメント用紙の提出率については進捗評価が「C」です。改善すべき事項、改善方策への記載はありませんか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★1年間に履修登録できる単位数の上限に関しては、新設学部のうち資格取得や在学中に中長期の海外研修を求めるといった理由から50単位を超えて設定した学部があり、完成年次後の検討となる。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
